

■「みんなで減らそうレジ袋チャレンジ」 受賞サポーター 一覧

●審査員長

浅利 美鈴 氏 (京都大学大学院地球環境学堂 准教授)

●審査員

山崎 亮 氏 (studio-L 代表)

田中 太郎 氏 (日経 ESG 経営フォーラム/日経 ESG 編集長)

平尾 禎秀 氏 (環境省環境再生・資源循環局総務課リサイクル推進室長)

●全サポーター登録数：105 団体 (12 月 8 日現在)

●受賞サポーター数：最優秀賞 4 サポーター、特別賞 1 サポーター、優秀賞 10 サポーター

表彰名	サポーター名	取組内容	受賞理由
最優秀賞 企業部門	イオン 株式会社	2020 年のイオンの買物 袋持参運動 みんなで#マイバッグ キャンペーン	2007 年から有料化に取り組まれた先行性に加え、マイバスケットの普及、オリジナルマイバッグ作成、有料化収益の寄付、キャンペーン広報ツールの店頭掲出など、地に足のついた取り組みを、大規模かつ着実に展開して頂いた。その結果、必然的に総合得点が高くなった。全国展開の大手小売企業ならではの取り組みのみならず、地域の要望に沿ったマイバッグ貸出などの個別対応も細やかに行うなど、その役割以上の姿勢と成果を評価した。
最優秀賞 自治体・ 団体部門	富山県 & とやまエコ・ス トア連絡協議会	富山県でのレジ袋無料配 布廃止の取組み	2008 年には全県レジ袋無料配布廃止を行い、全国を牽引してこられたが、その取り組みが今も継続的に行われ、レジ袋辞退率 95%という成果に至っている。今年の夏は、若年層にマイバッグ実践モニター調査を実施し、結果を今後の普及啓発策に役立てるなど、更なる高みを目指す姿勢も評価した。
最優秀賞 普及啓発 部門	ふじのくに COOL チャレンジ実行 委員会	クルポで広げよう！レジ 袋チャレンジャー!!キャ ンペーン PR	静岡県内店舗の協力を得て、レジ袋辞退に結び付ける仕組みを、独自に構築したアプリで試行している。ゲーム感覚でアクションをクリアすると現場で QRコードを読みこんでポイントを貯められるのは、良いアイデアであり波及も期待したい。広報ツールについても、積極的に通路やバス内での掲出に努めて頂いた。

最優秀賞 独自性部門	徳島県 & 「レジ袋サクゲ ン作戦」 関係者一同	レジ袋の削減へ向けて ～レジ袋サクゲン作戦～	学校等で不要なエコバッグを回収し、小売店で活用する取り組みは、家庭で眠っているものの再利用(リユース)の観点からも、レジ袋を忘れた買い物客への配慮の観点からも、アイデアが光っていた。また実績値としても、リデュース・リユースともに一定の成果を得られている。子供達への環境教育も組み合わせられている点も高評価につながった。
特別賞	合同会社ユー・ エス・ジェイ	“サステナブルをエン ターテイメント！”環境 意識啓発活動	エンターテイメントのプロとして、このような取り組みに努力頂いたことを、まずは特別に評価したい。キャラクターのパワーや、自らの SNS やメディアの発信力も活用した訴求力が際立っていた。「レジ袋のうた」を替え歌して頂いた「プラスチックをリサイクル」の歌と踊りもユニークであり評価した。今後のさらなる、継続的な取り組みにも期待したい。
優秀賞 企業部門	JR 東日本 グループ	プラスチック削減キャン ペーン	有料化直後から、再生素材のエコバッグを配布したり、コンビニや飲食店含めグループ一丸となった取り組みを展開したりするなど、交通業界の中で先進的である。サイネージでの掲出等、キャンペーン広報ツールを積極的に活用して頂いた点も評価した。
優秀賞 企業部門	株式会社 ファミリーマー ト	バーコード決済機能付き アプリ「ファミペイ」に て「エコスタンプ」進呈 キャンペーン実施	ファミペイを活用したレジ袋辞退者へのポイント還元を開始。その還元実績やレジ袋辞退率を1カ月毎に公表するなど、コンビニ業界の中でも情報発信力を評価した。
優秀賞 企業部門	生活協同組合 コープえひめ	コープえひめはレジ袋使 用量削減に取り組みます	店員さん達による、エコバッグの売り場づくりや商品説明動画制作など、気持ちが伝わる活動を展開。9月の昨年対比で削減率が66.5%アップとの実績からも浸透度合いを評価した。
優秀賞 自治体・ 団体部門	東京都日野市 &レジ袋無料配 布中止に向けた 市民・事業者・ 行政共同会議	買い物は行きも帰りもマ イバッグ リカバリーマイバッグを 配布(10月のマイバッ グ持参強化月間)	2008年度に活動開始後、市民参加型で地道に継続。空の容器包装をマイバッグに入れて店頭回収ボックスに入れ、買い物商品でマイバッグを満たして帰るという、「容器包装お返し大作戦」は、レジ袋削減とリサイクル活動の双方につながる活動であると評価した。
優秀賞 自治体・ 団体部門	ごみゼロ社会推 進あいち 県民会議	レジ袋削減取組店制度の 実施 あいちプラスチックごみ ゼロ宣言	1993年に設立後、今では200店以上の地元企業と連携して、プラスチックごみ削減の活動が継続されている。アワードの開催やオリジナルソングの作成など、取り組みの広がりや継続性を評価した。

優秀賞 普及啓発 部門	北海道 環境生活部 環境局	環境教育情報紙『エコチル』 広報ツールを活用した 「北海道レジ袋チャレンジ」を実施	自治体として様々なチャンネルでの啓発を丁寧に取り組んで頂いた。特に、こども環境教育情報紙エコチルで、レジ袋を辞退すると色を塗り、景品に応募可能なワークシートを展開するなど、広報ツールも積極的に活用された点を評価した。
優秀賞 普及啓発 部門	青森県、 もったいない ・あおもり 県民運動	もったいない・あおもり 県民運動 あおもりプラごみゼロ宣言	2008 年からレジ袋無料配布を廃止。行動指針が明確であり、会員事業者のレジ袋辞退率など取り組み実績を定期的に公表している点を評価した。
優秀賞 独自性部 門	株式会社 マルト	レジ袋削減「マイバッグ 強化月間」	福島県いわき市本社のスーパー。全 37 店舗対抗のマイバッグ・マイカゴ販売コンテストを実施。売上金額以外にも売り場作りビジュアル賞を設けるなど、独自の取り組みでレジ袋辞退率を引き上げられた点を評価した。
優秀賞 独自性部 門	しまんと新聞 ぱっぐ金沢支部	しまんと新聞ぱっぐワー クショップ @金沢	高知県四万十から始まった取り組みで、マイバッグそのものを新聞紙再利用とした点に独自性がある。ワークショップ形式で参画者を広げるという展開方法も、啓発活動として評価できる。
優秀賞 独自性部 門	Challenge For the Future	店頭でのマイバッグ(通 称 SDGs バッグ)の 「貸し出し」キャンペー ン	規模は小さいものの、店頭でマイバッグの貸し出しを行う若者のアイディアは、他多くの小売店に波及性もある点を評価した。

／以上